

西海ブロック水産業情報

NO. 100(平成30年1月～3月)

増養殖情報

山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県
	<p>○筑前海 フトメズク養殖:3月現在、育成中。種網の状況により生育に差がみられる。4月より収穫開始予定。</p> <p>○有明海 12月27日から開始された冷凍網の張り込み作業は30日までを終了。 摘採は1月5日から開始され、1月中は製品の質は良好。1月31日に珪藻(スケルトネマ)の増殖を確認、栄養塩は漸減し2月9日に色落ちを確認。色落ちは3月中旬まで継続。3月12～14日に支柱の中間撤去を実施。4月8日までにノリ網の撤去は終了、4月11日～24日までノリ支柱を撤去。 冷凍網生産は、生産枚数 939,857,100枚(過去5年比97%)、生産金額 11,344,403,669円(過去5年比102%)、平均単価 12.07円(過去5年比+0.59円)。 29年度漁期全体では、生産枚数 1,289,505,500枚(過去5年比99%)、生産金額 16,478,126,903円(過去5年比110%)、平均単価 12.78円(過去5年比+1.29円)。</p> <p>○豊前海 【カキ養殖】 ・北部漁場の生産が低調も、他は成長、生残とも良好に推移。 ・3月末時点で、北部、中南部、南部は生産終了。人工島周辺、中部は4月も生産。 【栽培関連】 ・「かくや装置」によるアサリ稚貝生産、干潟での放流試験を実施中。 【資源管理】 ・底びき網漁業者がヨシエビ、シヤコの体長制限(ともに10cm未満)等の自主規制を実施。</p>	<p>○玄海 ・カサゴ:1月26日から種苗生産開始。3月末時点で全長27～28mm約25万尾飼育中。 ・クロアワビ: 平成28年度産:1月下旬から2.5万個(30mmサイズ)を配布中(約2.2万個配布済)。3月末時点で殻長26～30mmサイズを約3万個飼育中。 平成29年度産:10月24日から種苗生産開始。3月末時点で殻長9.9～10.6mm約8万個飼育中。 ・マナマコ:3月15日からアオナマコの種苗生産開始。3月29～31日に採苗。波板飼育中。アカナマコは4月上旬に採卵予定。</p> <p>○有明海 ・マガキ養殖 29年度は、19経営体が26基の筏を用いて生産を行った。サイズは小ぶりながら身入りは良く、一昨年度並みの92トンが収穫された。 ・ノリ養殖 冷凍網出庫は12月27日に行われ、出庫後の冷凍戻りは良好であった。しかしながら、中部地区の一部から南部地区にかけての漁場では、冷凍出庫前から栄養塩が低下していたことから、12月末にはこれらの漁場では色落ちが発生し、その後、1月上旬の降雨等の影響により1月中旬には色落ちは解消した。色落ちは、その後も、これらの漁場を中心に発生・解消を繰り返しながら継続し、3月上旬には色落ちを解消したものの、アカグサレ・ツボ状菌病の重症化により、3月中旬以降は生産不能となった。なお、収量は平年より少なく、品質感によって取引単価は高かった。最終的に29年度漁期は、生産枚数18.3億枚、生産金額242.0億円となり、15年度以降15年連続で生産枚数・金額ともに日本一となった。</p>		<p>・1月:カンパチでレンサ球菌、ノカルジア症での被害発生。 ・1～3月:カンパチ、シマアジ、マダイ、カワハギで低水温障害での被害発生</p>

鹿児島県	宮崎県	大分県	沖縄県
<p>・3月中旬～4月上旬に鹿児島湾奥部で<i>Heteroshiguma akashiwo</i> による赤潮が発生したが、漁業被害はなかった。 ・ブリ人工種苗生産実証試験 34千尾生産(8～13cm) ・イワガキ養殖用種苗 24千個出荷(30mm)</p>	<p>○アカアマダイ種苗生産技術開発関連 10月31～11月2日の3日間で59尾のアカアマダイ活魚を確保し、そのうち27尾の雌親魚(活魚)から11月3～5日において合計約20万粒の卵を採取し、授精翌日に受精卵をオキシダント消毒(0.5ppm、1分間)したのち、約7万粒を県内種苗生産機関に提供した。なお、授精に先立ち、14尾の雄親魚(鮮魚)から生殖腺を摘出し、個別に人工精しよう液に精子を懸濁したのち授精まで冷蔵保管するとともに、網膜、脳のVNN検査(RT-qPCR法)を実施し、このうち9尾がVNN陰性であった。授精時にはVNN陰性及び精子の活性の良好な6尾分を授精に用いた。過去、雄親魚のVNN陽性検出については体重約800g以上の大型魚で多い傾向にあったが、今期14尾の雄親魚(体重560～843g)においてはVNN陽性検出と魚体重に関係性はみられなかった。</p>		<p>特記事項無し。</p>